

第17回日本語

スピーチコンテスト

2025年2月16日（日）に、イーグレひめじ3階あいめっせホールにて、第17回日本語スピーチコンテストを開催しました。9か国14名の姫路近郊在住・在学・在勤の外国人が参加し、日々の生活の中で感じたことや伝えたい気持ちを日本語で発表しました。



金賞は、神戸医療未来大学に留学中のマンマー出身シュエ イー ウィンさんが受賞しました。スピーチのタイトルは、「忘れられない思い出 愛をこめて」。スピーチでは、ウィンさんが7歳の時、サイクロンで自宅が倒壊したが、母親はいつものように夕食を用意してくれたという体験をまじえ、母を見習い日頃より周りに困った人がいれば優しく接するようにしていると続け「お母さん有難う、あなたの元に生まれて良かった」と感謝を表しスピーチを終えました。

銀賞は、姫路市でALT（外国語指導助手）をしているアメリカ出身のシドニー ウィリアムソンさん（日本語ひろば学習者）が受賞しました。スピーチのタイトルは「日本語がお上手ですね」。スピーチでは、たいていの日本人は、外国人が少しでも日本語を話すと「日本語がお上手ですね」というが、それで終わるのではなく、もっと会話を続けてほしい、楽しく会話を続けることが自信につながるのだと力強く訴えました。



銅賞は、日本工科大学校で留学中のネパール出身のウプレティ インドラ プラサドさんが受賞しました。スピーチのタイトルは、「日本は本当に留学生が必要ですか」。日本ではたくさんの留学生が将来日本の労働力となるため一生懸命日本語を学び、日本になじもうと努力をしている。日本人と外国人はお互いをよく知り、理解し合い、交流する必要があるのではないかと、「日本に留学生は本当に必要ですか」今一度この言葉の意味を考える必要があるのではと問いかけました。



観客の投票で決まる「オーディエンス賞」を受賞したのは、日本工科大学校で留学中のマンマー出身のウィン トウン ボーさんでした。

発表者全員、流暢な日本語で素晴らしいスピーチを披露していただきました。また、審査協議の間には、日本工科大学校の留学生に、スリランカ舞踊、ネパールダンス、ギター弾き語りを披露していただきました。

会場からは、「日本人が考えさせられるような内容のスピーチもあり、とても素晴らしかった。」「皆さんがどのような思いで日本に来て努力されているのかよくわかりました。」

「とてもよかった。またいつかやってくださることを願っています。」など、たくさんのメッセージが寄せられました。

今回のコンテストをとおり日本人にとっても外国人にとっても、多文化共生を考え直すきっかけづくりになっていることを願います。

